第12回子ども国会
宣言書

子どもへこれからの社会と
向き合うきっかけを提供する

平成27年8月20日
子ども議員一同

目次

p. 2　ブラック企業

p. 9　エネルギー問題
～発電の可能性と私たちにできること～

p. 21 脱ゆとり教育

p. 27 両親の介護ってどうなるの！？
　　介護問題を探っていこう！

p. 30 いじめの問題

ブラック企業分科会

参加者名:安藤大志　黒田奈々　高橋佳奈子　山本秀章　吉永未来

花田世理　斎藤優雅　横山雄紀　齋藤翼　金子卓生　髙橋美樹

ブラック企業の問題点

＊残業

・サービス残業　・月 3 桁の残業　・終電帰り

＊精神攻撃

・圧迫面接　・パワハラ　・セクハラ　・モラハラ

＊最悪の事態

・過労死　・精神科病院への通院

＊リストラ

・リストラ　・急なリストラ

＊給料

・給料の未払い　・給料が少ない　・有給がとれない

＊長時間労働

・長時間労働　・休日出勤　・休みが少ない　・強制労働

＊洗脳

・精神が不安定　・宗教的　・やりがいを強調　・逆らえない雰囲気　・社訓

この中でも、深刻な長時間労働という問題を解決すべき

長時間労働をしてしまう理由とその根本原因

＊責任

・店長がアルバイト　・責任感に駆られて

＊認知不足

・法律や制度に対する認知不足

＊人手不足

・人手不足　・代わりがいないことで、仕事がまわらない
→周りに人がいないという環境、人間関係が悪い

＊能力がない

・店側が無能　・従業員が無能　・サボる人がいる　・仕事が終わらない　・仕事量が多い
→親の責任

＊賃金

・時給が安い(長時間働いて金額を稼ぐ必要がうまれる)　・時給が高い
→いろいろなモノの価格の低下

＊店長の責任

・店長と店員のコミュニケーション不足　・店長や先輩に逆らえない
・店長のためにという思いやり
→店長に任せきりになっている

＊法律

・問題が表面化しやすい　・法律や処罰がゆるい

＊家庭

・家庭の事情　・家に帰りたくない
→家庭内不和　貧困層の家庭

＊利益重視

・売り上げ向上の営業時間延長＋従業員の長時間労働　・24 時間営業

＊その他

・無関心　・社会としての流れ　・示談金で解決　・同業者、ライバルとの競争
→被害者と国との距離が遠く、意見が伝わりづらい　弁護士費用が高い

労働に関する法律や制度について認識できていなければ、長時間労働の根本的な解決には繋がらない

<u>認知不足の解決策</u>

・労働に関する法律や制度についての出張授業を行う

☆子ども議員の提言

労働に関する法律や制度に関する出張授業を実施

実施理由

・労働に関する法律や制度についての認識不足が原因で、うつ病や過労死など

手遅れになるという事態を未然に防ぐため

・ブラック企業で働く当事者となったときの対処法を学ぶため

実施時期

・中学校３年２学期(義務化し、全員が授業を受ける)

進路を考える時期であり、中学校卒業後すぐに仕事に就く人もいる

また、この出張授業は総合的な学習の時間で行う

・高校

(講演会形式で、義務ではないが就職を考えている生徒は受講するように推奨)

高校１年…アルバイトに関する内容

高校３年…就職・就職後に関する内容

配布物は学期末(長期休み前)に配布する

具体的な授業内容

＊中学校

・クイズや寸劇などを用いて興味を持ってもらう

（アルバイトや賃金についてなど、身近な内容を軸にする）

＊高校

・法律や労働組合、制度に関してより具体的な内容を軸にした授業

・イラストを用いた分かりやすい資料(冊子タイプ)を配布

・ブラック企業で働いたことのある人など、生の声を聞く

☆子ども議員の声

今回が子ども国会初参加だったけど、とても楽しむことができました。

ファシリテーターのＹさんを中心に、それぞれが積極的に発言できていたと思うし、自分も分科会の一員として参加できたと思います。初めは緊張して話せないかもしれないと心配していたけれどファシリテーターもサポーターも他の参加者の方も明るくいい人ばかりで、とても話しやすかったです。（安藤大志）

一白二日でする討論会イベントは初めてだったが、スムーズに風呂や食事が進んだので、スタッフの方々が綿密な計画をしてきたことが分かった。

また、討論会の内容としてはファシリテーターの方が事前資料を作ってくださり、途中で用いる資料も多く、他にはない特徴だと思った。（山本秀章）

今回はとてもよい体験ができたと思います。普段、社会問題について話す機会すらないのでとても新鮮でした。密度の濃い話し合いができました。私の参加したブラック企業分科会は、愉快で面白い参加者ばかりで一緒に話し合うこと自体が楽しかったです。この分科会ではブラック企業についての認知不足に注目し、そのための教育の見直しについて考えました。この結論を様々な人に報告し、聞いてもらうだけでも、社会が少し変わればいいなと思います。

（吉永未来）

最初は、ちゃんとやっていけるか不安だったけれどみんな愉快な人たちで、話しかけてくれることも多く、楽しい二日間になりました。そして、この二日間を通して他の人たちの視点で考えてみることの大切さを学ぶことができました。（高橋佳夏子）

子ども国会に参加するにあたり、私自身ある決意を固め挑みました。それは、「自身で考え、意見、他社への理解と更なる意見」そんなことをモットーにしました。私は今回のミーティングが本当に楽しかったです。四六時中考え、笑い、意見を掘り下げていくことで、同時に自分の考え、心が成長しているよう感じました。そして何より、裏で作り準備してくれた委員やスタッフと企画は素晴らしかったです。是非、また参加させて頂きます。（黒田奈々）

子ども国会は、もっと堅苦しいものだと思っていました。しかし、実際は消極的な私でも気楽に発言できるような場でした。学校などでもみんなで話し合ったり、討論をしたりする機会はありましたが、こんなに長い時間をかけて、ひとつのテーマについて掘り下げていったのは初めてでした。しかし、私はブラック企業について知識も意見もありませんでした。この２日間で知識も得ることができましたし、問題意識やそれに対する自分の意見も持つことが出来ました。本当にいい経験になりました。（花田世理）

私は、「沢山の方と意見を交換し、自分の価値観を広げるきっかけを作りたい。」と思い、今回の子ども国会に参加しました。最初、知り合いが全然参加していないため参加することにとても迷いました。ですが、勇気をもって参加してみると、普段関わることが出来ない方のお話が聞けたり、新たな知り合いもできるきっかけとなりとても有意義な2日間を過ごすことが出来ました。来年は、受験生になるので参加出来るかわかりませんが、今後機会があればまた参加したいです。（斎藤優雅）

エネルギー問題～発電の可能性と私たちにできること～分科会

参加者名：本汐美　大胡純　花澤昴乃　高持佳克　関口功太郎

藤井玲香　岡本将人　藤原慎　今井宥里　阿部剛　桑田実結

【進行の流れ】

1、　発電方法を列挙

付箋ワークをし、知っている方法を挙げていった。初めは主要な発電が出ていたが、最後の方はマニアックな発電方法が出た。燃やす方法（原子力、火力）と、集める方法（水力、太陽光）とその他に分けた。

2、　各発電方法における長所短所を列挙

各発電の紹介と同じように付箋ワークをした。
話し合いの際、再生可能エネルギーは水を利用したものと風を利用したものと光や熱を利用したものに分けて話し合った。
再生可能エネルギーはコストがかかるという意見が多く挙げられた。
水を利用した発電は自然破壊につながるという意見が多く挙げられた。
風を利用した発電は騒音被害があるという意見が多く挙げられた。反対に長所は地球温暖化につながる二酸化炭素を出さないということと半永久的に使用できるという意見が多く挙げられた。
光と熱を利用した発電は天気に左右されやすいという意見が多く挙げられた。反対に長所は土地の有効活用が可能だということと気軽に設置できるということが多く挙げられた。
火力発電に関しては長所は発電量が多いという意見と、出力調整ができるという意見が多く挙げられた。逆に短所は資源が有限であるという意見と、地球温暖化を促進させてしまう CO_2 がとても多く排出させてしまうという意見が多く挙げられた。
原子力発電では事故などの際に毒性の放射線物質を排出してしまう。廃棄物のリスクが高い。長所は補助金等により地域の経済がうるおうという意見と、事故がおきなければ国の技術力の高さが証明できるという意見が挙げられた。

3、　各発電方法を今後推進していくか縮小していくかを検討

燃料等を必要と半永久的に発電することができる再生可能エネルギーの発電比率を増やしていきたいということで一致していた。
しかし現状では再生可能エネルギーの割合は低く、不安定で発電量が少ないことから将来的に

どこまで増やすことが可能かという視点で議論を進めた。
火力は二酸化炭素を排出しないようにする方法等も提案されていたが、いずれは枯渇する資源を使うため、なるべく縮小していきたいということで一致した。
再生可能エネルギーの割合がまだまだ低い現状の中で火力依存から脱却するために我々が重視したのが原子力である。現状の原発は事故のリスクやゴミの問題があるため、それらの問題を改善した次世代型の原発である高温ガス炉への移行を提言する。ただし、高温ガス炉は大型化できない、建設費が高くなるといった課題があるので現状の原発を再稼働して段階的に高温ガス炉に移行していくべきだとされた。

4、 2030 年における日本の理想の電源構成を検討

まず、100 年後の自分が望む電源構成をそれぞれがイメージした。数値にばらつきはあるが、パターンとしては再生可能エネルギーを主力として補助に原発（高温ガス炉と現在の原発をミックス）・火力を使う案と、原発・火力を主力として補助に再生可能エネルギーを使う案の2つが出た。
どちらにおいても、原発は高温ガス炉と既存の原発をミックス、火力はメタンハイドレードなどの新技術を多く使うという意見で一致した。
次に未来像に近づくために 2030 年おける電源構成を考えた。日本政府の発表した長期エネルギー需要見通しを参考とし、それぞれの発電方法の長所・短所を考慮し、どうその短所を補うかを念頭に置きつつ話し合いを進めた。水力と地熱は政府案を維持し、それぞれ９％・１％とした。
原発は政府案では２２％の予定を２５％に引き伸ばし、既存の原発の短所を補った高温ガス炉を１５％と多く利用し、残りの１０％を既存の原発とした。
その後各子ども議員が残りの６５％で火力と再生可能エネルギーをどう使うか意見を出し合った。パターンとして3つ出た。各パターンの方向性を出した上で、折衷案として火力経済性と達成できる目標という点を考慮し、火力を５８％～６１％、再生可能エネルギー（太陽光、風力、その他）を４％～７％にするということで決定した。
また、特別案に１００年後に再生可能エネルギーのみ使用したいという点を踏まえて、火力を４５％、再生可能エネルギーを２０％という案を出した。

5、 前項の電源構成を実現するための課題について考察

先程出た各発電方法の短所の中で特に中が問題であるのか考えた。
原子力発電では危険を伴う原子力発電所を受け入れてくれる場所少ないこと、ゴミの最終処理場がないこと、安全面が心配であるということが出た。また安全面を強化した高温ガス炉はコストが高いことが問題であると考えた。
火力発電では、石油・天然ガスなど原料が海外に依存してしまっている為海外情勢に影響してしまうということ、二酸化炭素の排出による地球温暖化の進行が問題視された。
太陽光発電は広大な土地が必要なこと、電気の買取価格が下がってきていること、天候に左右されることが挙がった。

風力発電では騒音による健康被害や設置コストの高さが問題だと考えた。洋上風力発電は風力発電よりもさらにコストが上がることが問題だと話し合った。
水力発電はダムの建設場所がないことと建設費がかさむことからこれ以上拡大するのは難しいのではないかといいう意見が出た。

６、　課題の解決案を前提として今後のエネルギー問題に対する提案

各発電に対する短所を付箋ワークし、最も改善すべき点は丸をつけて強調し具体的な改善策を列挙した。しかし、発電方法や技術開発の分野には専門知識が伴うためそれらの具体的な改善策に重点を置くのではなく高校生らしい柔軟で実現させたい「意志」を反映させた改善策を見出した。特に原子力発電の課題に対しては解決策を出すためには時間を多く費やした。その際には情報開示をし、国民への理解を第一に考える必要があると意見が一致した。

☆子ども議員の提言

【各発電方法の長所と短所】

【水力】

長所
安全
CO2 に排出量が少ない
半永久的
他の自然エネルギーより安定？
環境にやさしい
再生可能

短所
自然破壊(ダム)
　森林伐採
　川の生き物に影響
建設できる土地がない
多大なコスト(ダム建設費)
環境に左右される
　異常気象に弱い
発電量が調節しづらい
発電量がすくない
耐用年数が短い
地上まで運ぶロスが多い

【塩分濃度差】
短所
開発できる場所が少ない
機材の塩害対策

【波力】短所波のないときに左右される

【潮力】短所海の環境を崩す

【揚水】そもそも蓄電池のようなもの

【風力】

長所

再生可能エネルギー

自然破壊がない

CO2 ださない

半永久的

エネルギーセキュリティの確保可能

短所

発電量が不安定

　風が吹いていない時は発電できない

発電量が少ない

建設費コスト

　風が強いと壊れる

電気料金が高い

音による健康被害

環境破壊

　動物の生態系への影響

建設出来る場所が限られている

日本に設置しにくい

【洋上風力】

長所

健康被害がない

陸よりも風が吹く

観光名所になる

短所

輸送のロス

海上の景観を損ねる

設置が困難

【太陽光発電】

長所

小規模で各地域で設置できる

気軽に設置

半永久的

太陽があればどこでも発電できる

くもりの日はためた電気でまかなえる

CO2 ださない

非常用電源になる

短所

受け入れられる容量がない

建設コストが高い

家庭で発電した電気の買取価格が低下している

天候に左右される

夜に発電できない

パネルの汚れを落とす必要がある

光が反射して近所に迷惑

太陽熱発電

長所仕組み簡単→管理〇

【地熱】

長所

日本にとってよい燃料

ボイラーの役目を果たせる

導入費用が安い

24h発電可能

短所

温泉帰せ！

設置場所に限りがある

熱光起電力

高温岩体地熱

【火力】

長所
発電量をコントロールできる
発電量が多い
安定
　天気に左右されない
公共プールの温水にまわす

短所
火力をメインで使うことによって電気料金があがる
ラーニングコストが高い
施設の老朽化
資源の枯渇危機

【石油】
短所
海外情勢の影響
供給不安定
国内生産量が少ない→他国に依存
CO2 排出
　地球温暖化の進行

【石炭】
長所
CO2 をあまりださない方法あり
発電量
資源が安い
短所
CO2 以外の〇、〇が多い
CO2→地球温暖化
資源が有限
先進国の電気のために途上国で飢餓
環境破壊

【シェールガス】
短所事故が起きている

【天然ガス】
長所
価格が下がってきている
CO2 排出量が少ない

【メタンハイドレード】
長所日本の領土内に存在
短所
メタンガス
採取時に地層に影響を与える危険

【原発】

長所	短所
資源が安い	ウランを掘る時に汚染土→環境破壊
資源(ウラン)がある	政治闘争化
発電量◎	軍事転用の可能性
効率が良い	調整が難しい
発電量あたりの単価が安い	放射線と発ガンの相関性があるかも
ラーニングコストが低い(費用対効果)	技術者減る
有害なものがでない	働く人がいなくて大変
(酸性雨、光化学スモック等大気汚染の原因となる)	地域からの人口流出(過疎化)
温室効果ガスを排出しない	仕事場の減少
CO2 ださない	地震が多い
輸出してお金もらえる	危険をともなう
日本の技術をいかせる	放射被害
事故が起きず安全なら国の技術力を証明できる	関連費用がかさむ
設置した自治体にお金が入る	最終的なサイクルでは CO2 がでる
地域経済がうるおう	2/3 が排熱
安定した電力を得ることができる	ごみ問題
ベースロード電源に良い	廃棄物のリスクが高い
非核国で唯一再処理権を持っている	原発反対の空気感
まかなうために老朽化した火力をフル稼働	輸送のロス

【高温ガス炉】

長所 自己のリスク減

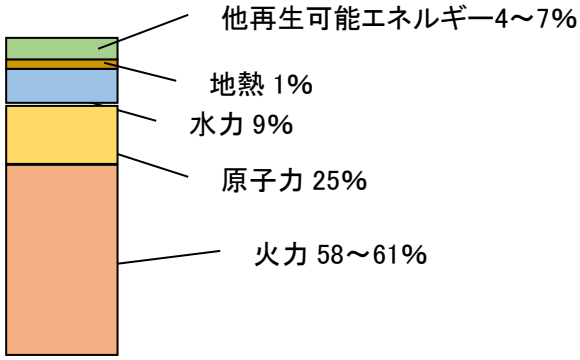
短所 放射線管理しなくてはいけない

大型化が難しい

設備が高い

【電源構成】

2030 年における電源構成



※他再生可能エネルギーには風力・地熱等含む

☆他案☆

将来的に自然エネルギーをベースロード電源に置くことを重要視した場合、火力 45%、再生可能エネルギー20%として構成する。

【原子力発電の課題と解決策】

海外へ技術輸出することによる軍事転用のおそれ

↓

軍事転用させないという法案を原子力に関する法案内に盛り込み、国はそれを順守する。

廃棄物処理

↓

・ゴミを減らす技術の開発
・最終処分場の確保及び廃棄物処理の今後の見通しとプランの策定、開示する
・廃棄物処理場を国民に明示する

安全/事故のリスク

↓

稼働しているときの基準の策定（放射線量等）

原子力発電所関連における労働人口の確保

↓

・労働環境を整える
・外国人の雇用/技術の伝達

設置場所の問題

↓

・人口が少なく、影響が小さい地域を選ぶ
・安全性を高める
・設置することで設置地域のインフラを整える、補助金を出す等インセンティブをつける

【太陽光発電の課題と解決策】

夜に発電できない

↓

・蓄電池の改良/開発
・他発電方法によって補う
（揚水発電の場合：昼の内に水をため、太陽光発電が行えない夜の間に水を流し発電）

土地が必要

↓

・休耕地の利用。作物がないときに設置
・小規模な設置を数多く行う。土地に設置することで固定資産税の免除など行う。
・公共施設（美術館等）に設置

パネルを設置するインセンティブが低い

↓

・おしゃれな太陽光パネルを設置した家屋をデザインする
・デザインした家屋をロケ地に使用することでPR

パネルの汚れ

↓

・汚れを取るアフターサービスを行う
・自力で汚れが取れるパネルの開発

電力供給が不安定

↓

供給不足分は火力発電で補う

【風力発電の課題と解決策】

騒音/音による健康被害

↓

羽がなく音の出ない発電機の推進

高コスト

↓

・プロペラの材料や構造を変えることで設置価格を下げる
・洋上風力を地域で行い観光地化することで初期投資を回収

電力供給が不安定

↓

・洋上に設置することで常に風を受けることが可能
・陸地では適した設置場所が少ないが、洋上にすることで解決し安定的に発電可能

【メタンハイドレード】

技術はあるが日本での利用は未定

↓

今後の動向による

【バイオマス】

ゴミの使い方

↓

廃棄物の利用を推進する

【メタンハイドレード】

温暖化により溶け始めている

↓

・早期に使用を開始することが必要
・使用が実現するための研究開発を行う
・日本海側では結晶の形で採掘でき、日本の資源を活かすことができる

【石炭】

環境に悪影響を及ぼす

↓

・環境に易しいIJCCの使用を推進

☆子ども議員の声

おもっていた以上に充実した議論をすることが出来た。もう少し時間があればもっと深い議論まですることが出来たかもしれないと思った。（高持 佳克）

エネルギー問題については昨年から様々なところで議論しているが、その中でも宿泊のため話し合いの時間が多く、特に濃い議論だった。どの発電方法も問題点は多いが、環境に優しく将来の世代に影響が少ないエネルギーMIX が使われていて欲しい。（花澤 昴乃）

昨日と今日までで話した事はいつか将来の自分たちが覚えて実践できればいいと思います（岡本 将人）

私は今回はじめて子ども国会に来ました。もっと大変なことをするのだと思っていましたが、みんなで楽しく議論できました。エネルギー問題のことは全然知りませんでした。けれど、子ども国会を終えるにつれて少しずつわかってきました。また参加したいです。（藤井 玲香）

再生可能エネルギーで多くの電力を賄うのは理想的だがなかなか厳しいと思っていたが、多くの意見を聞き、再生可能エネルギーだけでなく様々な発電方法に改善の余地があると思えたので、エネルギー問題について以前より前向きに考えられると思う。（大胡 純）

今回はあまり知識がないなかの議論で不安がありましたが、10時間も同じ議題で討論をすることでより深く、焦ることなく問題と向き合うことができたと思います。現実的な話よりも高校生らしい夢のある柔軟性がある改善策を是非現実となるような未来を作りあげていけたらと思います。様々な世代の意見を聞くことで可能性の大きさを改めて実感することができました。（藤本 汐美）

思っていたより、楽しく話し合いをする事ができた。発電という一個のテーマにいろいろな見方ができるんだなぁという事を改めて感じた。（関口 功太郎）

脱ゆとり分科会

参加者名：小林紗佳　山口ゆい　酒井利晋　田中梨香子　前田黎　清水魁星

森田聡　福島宏希　梅本悦和　山崎愛佳　黒金友太郎

☆問題と背景、理想像

【1：総合学習】

文部科学省の学習指導要領解説によると総合的学習の時間の要点は
【探究的な学習】と【協同的】と書かれていた。

しかし…

現在、中高生では自分の進路を決められない人も少なくない。

問題点Ⅰ

今の総合的学習の時間のカリキュラム
では自分の将来を想像できない。

理想像
もっと小・中・高校での経験を活かして
進路を決められるようにする。

問題点Ⅱ

授業時間が減る分、空いた時間をどのように使うかによって、学力のレベルに差が出てきてしまう。

理想像

皆が様々な分野に興味・関心や学習意欲を持つこと

【2:学力格差】

すべての児童が義務教育を受け、その学習内容を身に付けることで社会の必要とする人的資源を育成することが、現在の義務教育の目標である。

しかし

義務教育期間での学習内容を完全に修得できていない児童が少なくなく、学力の格差が広がっている。

現行の教育制度では格差が広がる一方なので、今以上の生徒に対するサポートが必要になる。
児童が学習内容を正しく理解し身に付けるよう教育することで、落ちこぼれを防ぎ義務教育の目標を達成しなければならない。

☆子ども議員の提言

文部科学省の担当の方　へ

【１：総合学習】

問題点Ⅰ・Ⅱを解決する施策

現在の学習指導要領解説では、総合的学習の時間の各学校において定める内容は、小学校、中学校・高等学校の３区分に分けている。しかしながら、現在の状態では、進路を決める時にリアルなイメージを持ちにくい。

したがって、小学校 6 年間の総合的学習の時間の区分を、2 年ずつに区切り、段階を踏んで自分の将来像をかたちにする。また全学年において、学習指導要領解説に既存である【探究的な学習】【協同的】を重要視する。

各学年において重要視したいこと

小学校では６年間を通して得るべきことは、学習指導要領解説にも記載されていた『地域の人々の暮らし』『伝統と文化』である。したがって 2 年毎の区分では以下のようなカリキュラムが良いと考える。

小学校

1･2 年次

身近な問題を取り上げる。

グループワークを通して、グループごとに発表する。

3･4 年次

身近な問題を取り上げる。

グループワークを通して、個人でまとめ、発表する。

5･6 年次

中学で自分の将来を考える時考えやすくするため職業の種類や内容について取り上げる。

グループワークを通して、グループごとに発表する。

中学校では、3 年間を通して小学校で得た知識をもとに自分の将来像を想像できることを目標とする。したがって、少人数のグループで、ディスカッションなどを行い、他人の意見を参考にしながら、個々でまとめる。また発信する能力を養うために、クラスの前でプレゼンテーションを行うなどする。

高等学校では、既存の『自らの在り方や生き方、進路に関わること』を重要視する。よって 9 年間の知識を最大限に活用し、自分の将来像と照らし合わせる。したがってそれぞれが進路に関わる職業や分野を調べ、個々でまとめる。

各学年における課題の提案

現在の総合的学習の時間で課題とされている事をもとにした、2学年区分それぞれの課題の提案は以下のようにする。

小学校

1･2 年次

『伝統と文化』を重要視する。昔遊びを体験し、感想を伝える。

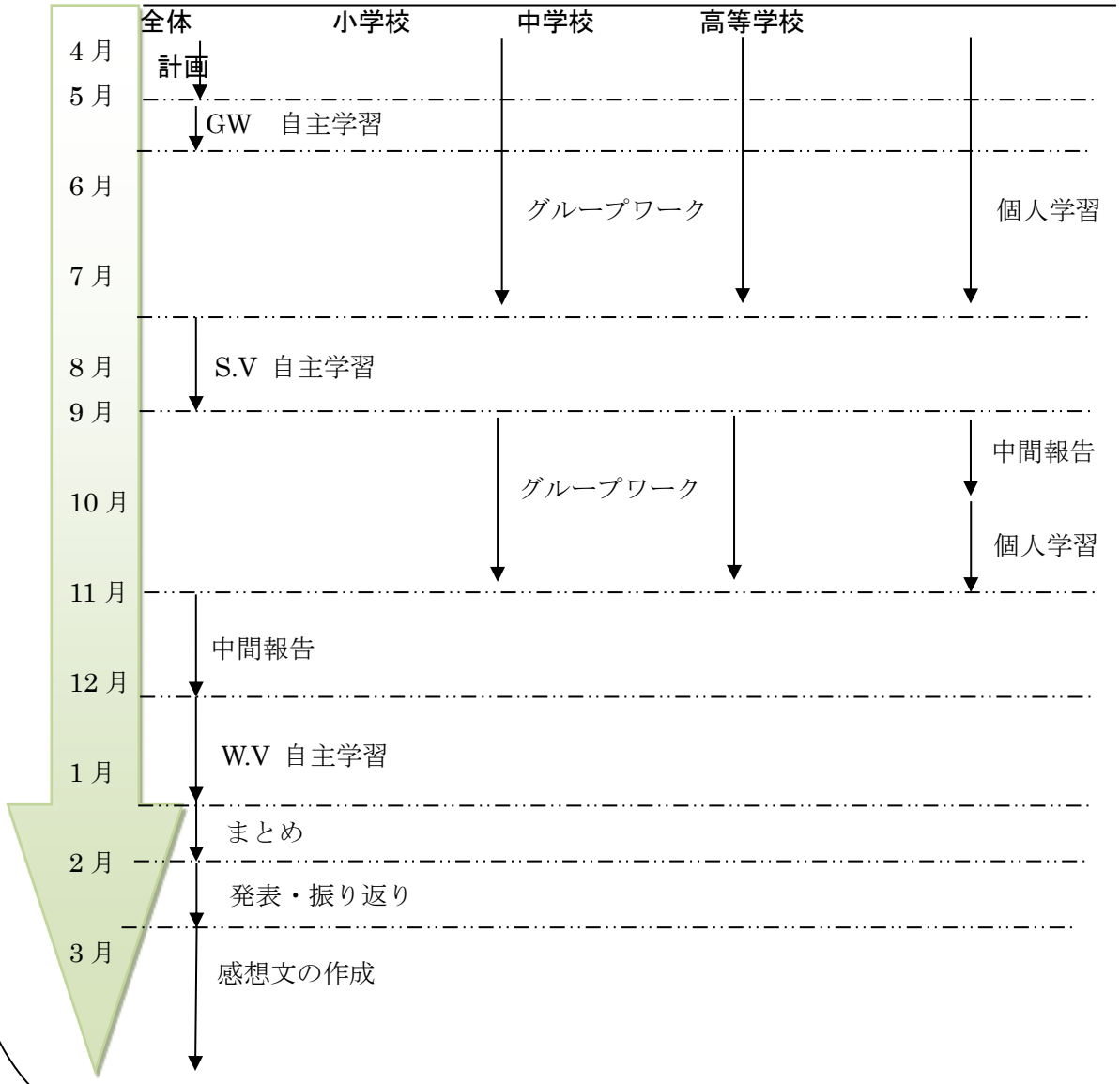
3･4年次

『地域の人々の暮らし』を重要視する。昔と今の比較、地域の建物･地形を調べる。

5･6年次

身の回りにいる大人の職業を重要視する。身の回りの大人にインタビューを行う。

また、1年間を通してのスケジュールは、下記とする。



【2:学力格差】

1. 提案のねらい・期待できる効果
学力の不足している児童に対する特別な措置を行うことにより、十分な学力に達するようにする。

2. 提案の内容
(1)学力の不足する児童に補習を行うことを、法律によって義務化する。
(2)指導が不十分である教師に対する再研修を行うことで、教育の質を向上させる。

3. 提案内容を実現するための具体的方法

(1)「学校教育法」への文言の追加

第三十条　小学校における教育は、前条に規定する目的を実現するために必要な程度において第二十一条各号に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。
　2　前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

⇩

第三十条　小学校における教育は、前条に規定する目的を実現するために必要な程度において第二十一条各号に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。
　2　前項の場合においては、すべての児童が生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させる義務を負うとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

(2)「学校教育法施行規則」の既存の 52 条の前へ以下の条文の追加(新 52 条)

第五十二条　小学校においては各学年の学習基準に満たないと思われる児童には授業時間外での補習の実施などの適切な処置を行わなければならない。

(3)「教育公務員特例法」への文言の追加

第二十五条の二　公立の小学校等の教諭等の任命権者は、児童、生徒又は幼児(以下「児童等」という。)に対する指導が不適切であると認定した教諭等に対して、その能力、適性等に応じて、当該指導の改善を図るために必要な事項に関する研修(以下「指導改善研修」という。)を実施しなければならない。

⇩

第二十五条の二　公立の小学校等の教諭等の任命権者は、児童、生徒又は幼児(以下「児童等」という。)に対する指導が不適切または不十分であると認定した教諭等に対して、その能力、適性等に応じて、当該指導の改善を図るために必要な事項に関する研修(以下「指導改善研修」という。)を実施しなければならない。

☆子ども議員の声

普段学校生活を送っていて「この授業がつまらない」という表面的で個人的なものはあるけれど、『授業方針』という本質的なことは今まで考えたことはなかった。今回の子ども国会ではじめて教育を『教育方針を決める立場』から、教育のディープなことを考える事ができたため、授業を見る目線に多様性が生まれたと思う。（前田黎）

普段あまり考えないような話題について深く考え意見を出すことが出来ました。学校教育の仕組みや普段見ることのない学習指導要領なども知ることが出来ました。今回は自分の意見を他学年の人と共有したり、他の人の意見を聞いて自分の意見に足したりしてより良い意見にしたり、高校生のレベルの高い話し合いを聞くなど普段できない体験をすることが出来ました。（山口ゆい）

日本の教育の現状についての問題点を根本から見つめ、制度や法律レベルで見直すことで、教育に対する知見や興味を深めることができ非常に有意義だった。（酒井利晋）

ゆとり教育や教育の現状について今まで何も知識がなかったが、この二日間で法や制度を照らし合わせながら問題点や解決策などを考えることができた。この機会に教育について興味が深まったのでもう少し考えていけたらと思う。（田中梨香子）

両親の介護ってどうなるの！？介護問題を探っていこう！

参加者名：堺沙穂　小川雄矢　藤野美登里　坂爪まなみ　日置巴菜

松井奏　高崎宗悦　牧山実紗

≪現実≫

☆ **介護の現場**
人手不足、重労働、
介護職の社会的地位が低い、
給料が低い

☆ **介護をする側**
介護疲れ、介護退職、独り身・
孤独、お金が高い

≪理想≫

介護の社会的地位の向上

介護の負担軽減

≪改善策≫

① 自分たちにできること

☆ 病院に行かない
無駄な通院を控え医療費を削減、介護に対する財源の確保

☆ 介護について知る
介護についての認識を増やすことで介護についていいイメージを持つ

☆ 介護疲れ
ボランティアに積極的に参加し少しでも介護する側の負担を減らす。

② 大人にしてほしいこと

☆ 介護退職をしやすい制度の導入（厚労省の方へ）

☆ 地域包括支援センターの活性化（厚労省の方へ）

☆ 介護に関する税金の導入（財務省の方へ）

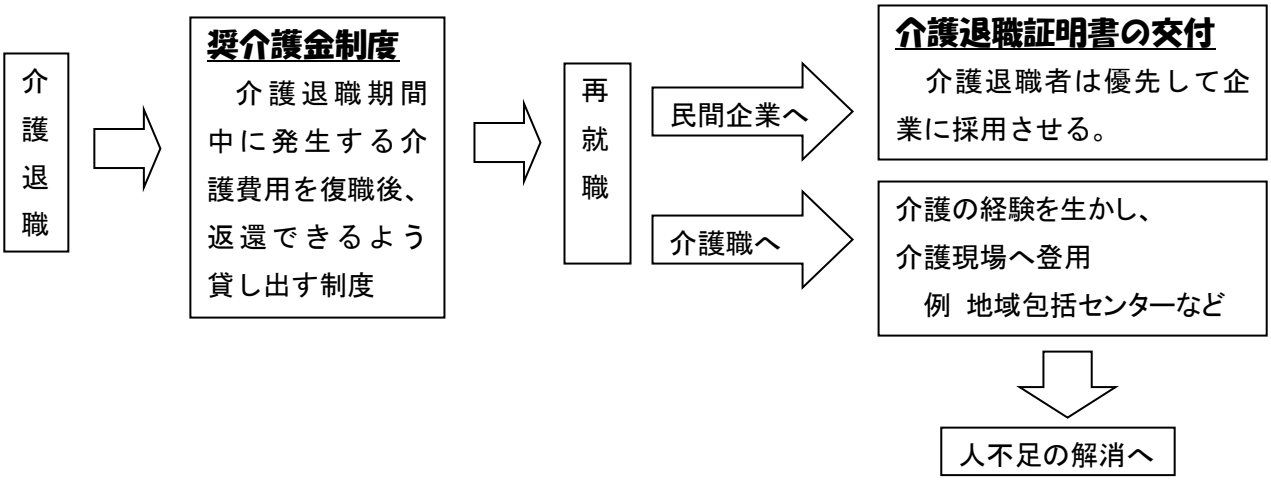
くわしくは・・・！

☆子ども議員の提言

厚労省、財務省　の方へ

≪介護退職をしやすい制度の導入（厚労省の方へ）≫

※ 介護退職＝家族等の介護をするため、やむをえず仕事を辞めること。



☆ **効果**

介護をする人にとって安心感、次の生活につなげられる。

介護者の負担減

≪地域包括センターの権限を強める（厚労省の方へ）≫

☆ 児童相談所が虐待する恐れがある家庭に強制力を持って立ち入りをするように、介護が原因の虐待、介護疲れなどしている恐れのある家庭に強制力を持って立ち入りさせる。

☆ 介護問題に関する情報を一元化させ、組織で対応してもらう。

☆ コールセンターの導入

介護経験者の導入、相談する人の見える化（プロフィール、顔写真など）、電話を受けた人が実際に訪問するシステム

☆ マニュアルの配布

マニュアルを各家庭に配布し、介護疲れ、金銭問題などの未然防止

≪介護に関する税金の導入（財務省の方へ）≫

毎月 1000 円／人の介護税の導入⇒国民全員が納付すると莫大な介護にかかわる費用を確保

☆子ども議員の声

私は、初めて子ども国会に参加しました。一泊二日という長い期間ひとつの議題について話し合うということは今までなかったので、いい機会になりました。介護について知っていることがほとんどなかったのですが、分科会で話すうちに介護について知ることができてよかったです。

普段の生活の中では中学生や高校生としか関わること、議論することがなかったので、大学生の方や実際に働いている社会人の方と一緒になって議論できたのはとても良い経験だったと思います。

介護について話していると、「制度があるのに知られていない、使われていない」ということが多いことに気付きました。まず、制度を作るときにしっかりと吟味すること、そして、広めていくことが大切だと思いました。

子ども国会で知った知識や得た経験をこれから役立てていきたいです。そして、来年も参加できたらと思います。（堺沙穂）

僕は「子ども国会」に、参加させていただきました。

最初、開会式でこの子ども国会は、松野頼久代表（維新）を始めとする様々な方々の挨拶で始まりました。

その後は、すごく良い案がたくさん出てきました。

この会は、僕にとってすごく有意義なものになりました。何故なら、僕達の班は介護で、「奨介護金」などの案や、「新税案」などが出て、すごく勉強になったからです。また、来年もこられたらいいです。（小川雄矢）

今回、私は「子ども国会」に初めての参加でした。

まず、最初に驚いたことは小学生から社会人まで幅広い年代が、歳の差など関係なく、同じ立場で議論を交わしていた点です。また、静岡など、東京都以外からの参加者が多い所も地域差による幅広い意見が聞ける点で役立ちました。

そして、自分の無知さを知る良い機会にもなりました。

自分は、介護分科会にも関わらず、介護についての知識があまりにも乏しく、経験もありませんでした。よって、机上の空論となってしまい、調べると、同じような政策が既に行われている。ということが多々有りました。やはり、ただ理想論で語るのではなく、実際に現場に行き、経験をすることが一番大切ということを痛感しました。今回の経験は、本当に貴重な物となったので、次回は、ファシリテーターなどの役職として、参加したいです。（坂爪まなみ）

今回の子ども国会は私にとって 2 回目の参加でした。前回、友達と同じグループで参加してなかなか積極的に参加することが出来なかったことを後悔していました。そんな中今回もう一回参加することが出来ました。

今回のテーマは介護問題についてでしたが、正直私は介護に関して知識も経験もなく、意見を思うように言えないのではないだろうかと不安でした。けれど、皆でどんな知識が足りないかを共有し、それを補いながら討論をすることでたくさんの知識を得ることが出来ました。実際に介護のことを家族の問題として考えるのはまだまだ先の事だと思いますが、今回こんなことを話したということだけでも思い出せたらいいなと思います。改めて、色んな学年、それぞれ違う立場で話すことできる子ども国会の魅力を感じました。

（藤野美登里）

いじめの問題分科会

参加者名:小林周平　山井美月　西山萌花　北谷美鈴音　小堀環生

高橋侑珠子　會木千裕　鎌田正晴　太田幹也　馬場貴也

〈いじめの定義〉
当該児童生徒が、一定の人間関係のあるものから心理的・物理的暴力を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの

〈今の社会〉

・厳しい競争社会や、運動不足などにより多くのストレスがたまる。また、そのストレスの発散法が見つからず、クラスメートへの暴言・暴力などのいじめへと繋がっていく。
→食事に画鋲などの異物を混入させる,机にジャムを塗る,トイレの水をかける etc.…
・スマートフォンや SNS の普及により、保護者や教職員の目の届かない環境での水面下的ないじめが増えてしまっている。
→LINE のトークを勝手に Twitter で晒す,個人情報を調べて家に押しかける etc.…

〈理想とする社会〉

「いじめが極端に減少するためには」

・互いの個性を尊重しあうことのできる社会
・ストレスをプラスの方向に発散できる社会
→スポーツ,歌う,食べる etc.…

〈政策内容〉
・「いじめを他人事と捉えてしまう授業」を改善する
→実際に少年院に入った人が小中学生に向けて講習会を開く
→身近ないじめに関するニュースや体験授業などを道徳の授業で取り扱い、いじめの深刻さを理解させる。
［自分たち］授業を通して得たいじめについての知識を、意図して話題にあげることでいじめを常に身近に感じる。
［大人の方］上記政策の承認に伴って、設備,人員,場所などの確保。金銭面での補助。

・「現代のニーズに合わせた教育環境」に改善する
→いじめが発生したことを減点するのではなく、いじめを発見した先生を評価する
→他人と比べて叱って伸ばすのではなく、個々の長所を褒めて伸ばす教育方針
［自分たち］自分の長所だけでなく、互いの個性を認めあう。
［大人の方］世間の目を気にしている教育方針の改革。

・「保護者への講習会」を開く
→いじめについての固定概念を払拭させるような講習を開くことで、子どもがいじめに巻き込まれた時の対処法が変わる
→朝食を毎朝子どもにとらせることを推奨する
［自分たち］朝食を毎朝とる。保護者といじめについて話しをする機会を持つ。
［大人の方］上記政策の承認に伴って、設備,人員,場所などの確保。金銭面での補助。現代のいじめについての正しい知識を大人の方へわかりやすく伝える。（LINE,Twitter など）

・「KiVa(いじめ対策プログラム)ゲーム」を全国に導入する
→傍観者に焦点を当て、いじめのないクラスをみんなで作るという意識を生み出させることと、いじめを未然に防ぐことを意図したフィンランド発祥のプログラム。
［自分たち］ゲームを通して、いじめの恐さを感じる。
［大人の方］上記政策の承認に伴って、設備,人員,場所などの確保。金銭面での補助。ゲームについての正しい知識を全国の教職員が把握する。

・「公園の役割を果たした公園」を増やす
→ボール遊び等が禁止されている公園,幼児の優先される公園などが増えている中で、溜まったストレスを存分に発散できる公園を復活させる。
→幼児の安全を気にせず遊べる、◯歳以上限定の公園を作る。
→土地の有効活用として、ビルの屋上に公園をつくる。
［自分たち］積極的に公園へ行き、運動をすることでストレスをプラスの方向に発散する
［大人の方］上記政策の承認に伴って、設備,人員,場所などの確保。金銭面での補助。

☆子ども議員の声

自分とは年齢や環境の違う人たちの中で意見を交換したり、考えたりすることができて、とても刺激的な経験をすることができました。
また、他の機会でこのような討論会をしたり、話し合いをしたりする時などに今回の経験を活かしたいです。（山井美月）

いじめ問題はシリアスなテーマだったが、実際に自分のまわりで起きているリアルな現状を共有できたことでより深い討論ができた。これからも今日話し合ったことを自分にも還元し、発信源となって積極的にいじめ問題に取り組んでいきたいと思う。
（西山萌花）

今回はこども国会初参加で、テーマは「いじめ」という深刻なものでしたが、ファシリテーターや先輩達のおかげで、討論にも気を楽にしてスムーズに話し合うことができ、充実した、忘れられない２日間になりました。これからは今日、話し合ったことを忘れずに、様々な問題に取り組んでいきたいです。（高橋侑珠子）

人間関係において切っても切り離せないものであるいじめについて、これまで自分はきちんと向き合ってきたことがあるのだろうか。そう考えさせられる 1 日でした。日本人の集団を好む性質や、現代の個性に対する不寛容な人間関係がいじめの根本的な原因ではないかと思いました。とても有意義な 2 日間になりました。（北谷美鈴音）

最近深刻な問題として取り上げられているいじめの問題について、年齢の違う参加者と話し合うことを通じ、いじめの対策とそれを奏功させるために必要なことに関する意見を出し合うことができました。というのも、参加者の周りで実際に起きた目を逸らしたくなるような事例やその周りで行われているプログラムなど、またそれを妨げる問題について認識することができたからです。このことから身の周りの人の周りに対して敏感にならなければいけないと考えさせられました。（小堀環生）

Kodomo Kokkai

子ども国会実行委員会